令和７年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会　報告書

園名（　つまこども園　）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】
○今年度のテーマ【基礎が身につく こども園】
○小学校への基礎として「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に基づいた力をつけていきたい。
○発達に応じた運動遊びにも力を入れていきたい。
○絵本の読み聞かせによって心を育てたい。
○園児一人一人の個性や表現を大切に、実態に応じた対応・保育を目指す。
○「信頼」を作ることは難しいが、小さいことの積み重ねを大事にし、「信頼感のある」園にしたい。
○６月より連絡アプリを試験導入する。
○食物アレルギーがある子どもたちも一緒に食べられるメニューを年３回実施している。
○園環境の整備もＲ４から計画的に進行しているが、最終段階。Ｒ８には完了予定。

	担当委員より
教育 ・ 保育内容	園全体でドキュメンテーションが充実しており、保育の経過や 10 の姿での子どもの育ちを捉える力の向上が感じられる。また、子どもの発達や興味に応じた環境や、遊びや活動を進めていくための環境を工夫されている。 ０，１歳児の保育室では、手先・指先を使って遊べるような環境、感触遊びに関わる環境などを工夫し、２回目の視察訪問時にはままごと遊びの環境の工夫があり、子どもの育ちに応じて環境を見直している。２歳児では、１回目の訪問時の「ままごとコーナーを真ん中に持ってきて２箇所にしてみると良い」という助言を受けて、ままごと遊びの環境の充実を図ってみたり、新たにボーリング遊びの環境を用意したりと工夫が感じられる。 ３歳児では、１回目訪問時の「イメージが湧きやすい物を用意すると良い」という助言を受けて、保育環境を工夫されている。２回目訪問時にはお店屋さん（ケーキ・パフェ・ドーナツ等）や魚つり遊びなどイメージをもって遊ぶ活動が充実しており、遊びの豊かさを感じた。４歳児は子ども同士の関係性や言葉でやりとりする力を育成するための保育を工夫されている。５歳児は子どもが主体的にお化け屋敷づくりを進めるなど、保育の展開や環境が工夫されている中で、10 の姿の「言葉によ

	る伝え合い」や「豊かな感性と表現」の育ちを意識して保育を行っている。 　今後、幼児クラスでは１年生の生活科や図工、国語、算数の教科書を見て参考にしたり、ドキュメンテーションで捉えた遊びや活動の経過を次の保育に生かしたりしていくことによって更に保育力が高まると思われる。
教育課程の編成	・毎月のカリキュラム検討会で計画を立てられ、見直すサイクルができている。 ・保育の質を高めるための素地となるので、継続していただきたい。
安全管理 ・ 防災教育	・避難訓練では２つの軸が必要。１つ目は大人がどう動くかということ。２つ目は子ども自身が自分で気を付けて動くことができるかということ。自分でイメージして理解して行動することができるかどうかが大切。紙芝居を用いて話をされていることは良い。 ・今後大人になっていく過程で、自ら行動できる土台となる。
家庭 ・ 地域との連携	・ドキュメンテーションをしっかり掲示されているので、園の活動が保護者によく伝わっていると思う。 ・今掲示されているドキュメンテーションは画用紙１枚分。それを迎えに来られた保護者がどこまで読めるのか。活動の印象は分かると思うが、活動内容の分かりやすさで言うと、インスタグラムでの発信も良いかもしれない。どちらがヒットする保護者が多いかを考えられたら良い。
職員の 資質の向上	・園内研修を含め、しっかりされている。 ・保育力アップを考えた際、研修は欠かせない。継続していただきたい。
食育 ・ アレルギー対応	保護者との面談、給食配膳時の対応等も含め、確実にされていて良い。継続していただきたい。
関係者評価の 取組	・アンケート等の内容を先生方で話し合ってみられると良い。 ・否定的な内容も課題として意識されたら良い。 ・連絡アプリでのアンケート回収も良いと思う。

令和７年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
園小接続報告書

内容
今回の訪問を通して、園の先生方が日々の保育を大切に積み重ね、子どもたちの成長を丁寧に支えておられることを強く感じた。各園の取組として、手作り玩具や自然物を取り入れた遊び、家庭から持参した絵本を劇遊びに生かす活動など、子どもの興味や発想を尊重した実践が、豊かに展開されていた。また、振り返りや発表の場を設け、表現力を育む取組も印象的である。 環境構成の面では、安全性に十分配慮しつつ、季節を感じ取れる素材や、主体的な活動を促す玩具・教材が効果的に配置されていた。特に５歳児のダイナミックな壁面制作や、子どもたち自身で整える環境づくりは、小学校の学びへつながる主体的な姿を育てていた。 保育者の関わりについては、穏やかで肯定的な声かけが一貫しており「楽器さん喜んでいるね」など、心を動かす言葉を用いた関わりが子どもの意欲につながっていた。先生の一声で子どもがすっと動ける統率力も見事であり細やかな観察に基づく配慮が行われているため、“気になる子”も集団の中で自然に成長している姿が見られた。 園小接続については、図工や生活科の学びを意識した活動や、「言葉見付け」による語彙の育ちなど、就学後を見据えた働きかけがすでに多く実践されていた。また、LDXの公開授業への参加など、教職員同士の交流を通して互いの教育内容を理解し合う機会が深まったことは大きな成果である。市内小学校との交流の在り方に差が見られるため、４月当初から計画的に交流を進め、一定の共通理解をもつ仕組みづくりを行っていくことが今後の課題である。

令和７年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
特別支援報告書

内容
各園の先生方のとても丁寧な取組を見せていただき、感動しました。 就学前の子どもたちは、ことばを聞いて理解したり、ことばで伝えたりすることがまだまだ難しい発達段階です。ただでさえことばでのやりとりが難しい子どもたちのために、ことばだけに頼らない保育・教育を実践されてきたからこそ、特別支援教育との親和性は高いと感じています。つまり、障害や特性のある子どもたちにとって過ごしやすい素地があるということです。以下がその例です。 ・マークやシールで、子どもの持ち物や位置を示すこと ・写真やイラストで見せること ・棚やタオル掛けなどを使い、場を区切ったり、動線を示したりすること ・音楽やピアノを手掛かりに活動に気付かせること ・繰り返して習慣化することで、子どもの理解が進むこと ・遊びと生活を中心に発達を促すこと　　など このような環境調整を基盤とした上で、個に応じて支援をするのが望ましい姿です。集団から離して個別で対応することが特別支援ではありません。また障害は、その子どもの内側にあるものではなく、環境や社会の狭さとの間に生じるものです。ゆえに、子どもの集団において、障害や特性のある子どもたちが「どうすれば『みんなと』できるのか」ではなく、「どうすれば『みんなで』できるのか」、そんな方法を今後も一緒に考えていけたらと思います。